

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 206号

2019年6月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

小西芳之助導源『わが主イエスよ』より (6)

### 第7講 称名の意義

#### キリスト教の信仰は聖書の文句による

(私が伝道師として) 最初の昭和 22 年 3 月の第 3 聖日の説教は、ヨハネ伝 3 章 14 節、15 節の、いわゆるイエスのお言葉、贖いの信仰、これを仰ぎ見て救われるという、このヨハネ伝 3 章 14 節、15 節の説教を致しました。

この第 1 回目の聖書講義の講解説教は、30 年続きました。今年の 10 月 11 日で終わりました 30 年間を、一言にして尽くしたような説教でありました。すなわち、この贖いの説明というものは、実に私の 30 年間の説教を要約したものでありました。誠に今から考えてみて、私として正しき聖書講解であったと思います。

由来、キリスト教の信仰は聖書の文句による。聖書の言葉による。聖書の言葉を離れて、正しき信仰はあり得ません。

## 贖いということが、聖書の全部

その時の贖いの信仰、そして、これはまことに、私 30 年聖書を勉強させていただきまして、贖いということが、これが聖書の中心であり、聖書の中心というよりも聖書の全部であります。イエス・キリストの贖い、神がイエス・キリストを世の中にくだして、われわれ罪人をあがなって、我々に永遠不滅の命を与えてくださったという、これは聖書の中心の問題であるのみならず、これは聖書全体です。そういうことは聖書を勉強すればするほどはっきり分かる。

幸いにして私は良き先生内村鑑三を与えられまして、教会をつかって信者を増やすとか、あるいは大きな教会堂を建てるとか、そういうことはすこしも考える必要がなかった。内村鑑三先生が「もし日本に一人の信者ができたならば、日本の国が変わる」と言われた。ですから、われわれはそういう先生から講義を聴いたものですから、決して信徒を増やそうとか、大きな会堂を建てようとか、そういうようなことは全然思っておりません。もし私の聖書の説教が、その一人の信者が、本当の信者ができるために少しでも役立つならば、私の伝道説教は成功です。

## 聖霊の降臨によって贖いの理解ができる

この30年の私の説教は、そういう先生から学びましたから、したがって聖書の勉強になりました。そうですから30年間、毎日、病気その他の事情がない限りは聖書に親しむことができました、少しく贖いの聖書の意義、すなわちイエス・キリストの贖いの意義が分かった。

30年にして少しく分かったと申しましても、その分かり方が、司会者が祈ってくれましたが、聖霊は徐々に下る。そうですから、この贖いの理解というものは、聖霊の降臨によって贖いの理解ができる。聖霊の降臨の無きところ、贖いの理解が起こってこない。

そして30年間聖書を読ませて頂きまして、この聖書の信仰、贖いの信仰というものは、聖書の勉強と深い関係にあることを知りました。由来、深い聖書の勉強なくして深いキリスト教の信仰は起こってこない。

私は確信する。内村鑑三が終始聖書の研究をもって終わられ、彼の説教は終始聖書講義をもって終わった。そういう先生に出会ったということは、非常に私は幸福と思います。そのまねをしたい。

## 聖書の最も善き注解は聖書の本文

説教の重大なる中心は聖書の講義です。聖書の正しき理解なくして信仰は起こってこない。繰り返し、このことは申し上げて差し支えない。諸君もそういう時間があるならば、繰り返し、少しでも聖書をお読みになることを勧める。聖書の最も良き注解は聖書の本文それ自身。

キリストは、律法の終わりとなられた

○ ロマ書 10 章 4 節「キリストは、全て信ずる者に義を得させるために、律法の終わりとなられた」

宗教のうちには信仰と行ないとを含みますから、終わりとなられたと言ったら、キリストは信仰の終わり、行ないの終わりになられたと、そう解釈できる。この言葉は非常に大切な言葉でありまして、我々が行ないをもって救いにあずかろうとし、また、我々は信仰が足りないからと言って信仰ということで心配しておりますけれども、我々の行ない、信仰の終わりとなられたと、この意味であります。

終りというのは、これは原語では英語の“Goal” 決勝点という意味があります。決勝点というのは「完成」の意味ですから、「終わり」という意味は「完成された」。キリストの贖いは我々の行ないの完成であるということをよく理解しておりますけれど、我々の信仰の完成であるということを我々は理解しない、まだ。そして、いつまでも「私は信仰がありません」「信仰が私は薄いです」と言って、信仰で我々はごたごたやっていますが、すなわち行ないの解決とともに、信仰の解決をキリストはしてくださっている。注目すべき場所であります。

## 信仰による義

### ○ 6節「しかし、信仰による義は、こう言っている」

モーセは律法による義を行なう人は生きると書いている。「しかし私（パウロ）は」です、信仰による義は、こう言っている。これは軽々に読む場所ではない、この5節、6節こそは、これは旧約聖書を放棄した場所です。放棄というよりも、放棄という言葉はまずいが、旧約聖書を廃棄して、完成した場所です。

キリスト以外にこういう言葉を言った人は、私はいないと思います。これは、パウロが、キリストの霊を受けて書いた言葉でありまして、この言葉は誠に宇宙的な言葉です。モーセ以上のことを私はキリストによってこれから言う、ということを行った。

## 口の条件と心の条件

○ 9節「自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる」

○ 10節「なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである」

イエスが死人からよみがえったと信ずる、これはイエスが贖いを成就したということを信ずることです。贖いを成就したということは、自分は贖われたと信ずる。自分は贖われたと信ずると言うのは、自分は復活する者とされたと信ずる。

そうですから、口では「わが主イエスよ」と言って、そして心では「自分は復活させてもらう者である」と信ずる。これが救いの条件。ここにパウロは救いの条件を二つ挙げた。口の条件と心の条件。口では「わが主イエスよ」と言う。心では「自分は復活させてもらう者である」と。これが救いの条件です。これで全条件。9節、10節、これがパウロは、述べている信仰だと言った。

口で「わが主イエスよ」と言いさえすればよい

よく読んでみて下さい。これは原語で読めば、「主の名を呼ぶ」という字は、何遍も同じことになりますけれども、9節、10節に「主の名を呼ぶ」という字は原語では「告白する」という字になっている。「告白する」という字は、言うことを自分でそれに同意して、それを認めるという字です。「告白する」という字の意味は、英語で言えば、agree とか acknowledge とか、そういうことになる。「イエスは救い主なり」と告白する。

「告白する」というのは、そういうものに同意し、そのものを認めておると「救い主と認めている」という「告白する」という字になっている。口で言い表すことになっておりますけれども、11節以下では「告白する」という字が消えてしまって、「呼び求める」になっている。「イエス様、イエス様」と、名前を呼んだらいいということになっている。厳格にこの言葉からいえば、イエスが救い主であると、贖い主であるということを信じ、これを認める必要はない。11節以下では条件になっていない。そうですから、非常に簡単になっているんですよ。口で「わが主イエスよ、わが主イエスよ」と、「お母さん、お母さん」というように言いさえすればよい。



## 繰り返し読んでいたら、聖霊自身が教える

「告白する」というのは、えらい難しい言葉ではないですよ、「わが主イエスよ」という言葉は。呼び求めるというのは、口を動かすただけでよろしい。万人ができる。これが「称名の意義」です。

もう少し詳しく申し上げたいと思いますけれども、といっても同じことであります。どうぞ、聖書ロマ書 10 章 1 節から 13 節まで、これはひとつ、繰り返し繰り返し読んで頂きたい。牧師の説教を必要としない。あなた方は分かる。これを繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し読んでいたら、聖霊自身が教える。

これからまた私の第 2 の伝道 30 年が始まります。何カ年か、天が許しますか、それは分かりませんが、モーセは 120 歳まで生きた。私のような弱い人間でも来年死ぬとは限らない。まだ、いつまでいるか分からない。そうですから、私の生きている間は、聖書を勉強して、皆さんと一緒に聖書を勉強したい。そしてここでは、過去 30 年間やってきましたごとく、必ず聖書講解説教をもって皆さんに相対したい。

## 私の信仰をあらわす一つの文章

最後に内村先生が、「われわれの信仰が一つの文章になるまでは力がない」と、「自分の信仰生活を導く力がない」と仰せになりました。私は先生のその言葉に励まされて、私の信仰を一つの文章にしました。最近できた文章でありますから、これを、何遍も言っていますから、皆さんご存知でしょうが、もう一遍申し上げます。

生きらば称名、このままで、目の前のなすべきをなし、死ねば天国、キリストに迎えらる、その時の喜びや如何。されば、生きるも死ぬるも賜物。

ちょっと注解を加えますと、「生きらば称名、このままで」、このままです。大切な言葉。「このまま」というのは、「称名する」方にもかかるし、「目の前のなすべき」方にもかかる。目の前のなすべきをなすのに、えらい力こぶを入れてやる必要がない。自分のそのままで、このままで自分のなすべきことをなしたらよろしい。

「死ねば天国、キリストに迎えらる」、「迎えらる」というのは、自分が行くのではない、迎えらるから、キリストが迎えに来る。ヨハネ伝 14 章 13 節を見たまえ。「われは迎えに来る」。お前を私の所にいるために私は迎えに来ると書いてある。